

第1回多治見市第7次総合計画策定市民委員会 会議録

| | |
|--------------|--|
| 日 時 | 平成27年3月10日(火) 午後6時00分～午後8時00分 |
| 会 場 | 多治見市役所駅北庁舎 4階 災害対策本部室 |
| 出席委員 | 古池嘉和委員(会長)、木下貴子委員(副会長)、飯野真理子委員、宇佐見信一委員、隈元智子委員、小池雅子委員、竹本幸二委員、堀尾憲慈委員、前田市朗委員、宮村登美子委員、山田輝幸委員、吉田有記委員、若尾由美江委員 (委員15名中13名出席) |
| 欠席委員 | 伊藤浜三委員、奥村崇仁委員 |
| 事務局 | 古川雅典多治見市長、青山企画部長、打田企画部次長、桜井課長 岩島課長代理、長谷川総括主査、水野総括主査、山内総括主査、御前主査、林主任 |
| 傍聴人 | 3名 |
| 会議録要旨 | |
| 1 | 市長挨拶(代理企画部長挨拶) |
| 2 | 委嘱状交付 |
| 3 | <p>会長・副会長の選出</p> <p>事務局 会長及び副会長への立候補はあるか。 《立候補なし》</p> <p>事務局 事務局案として、会長に古池嘉和委員、副会長に木下貴子委員はどうか。 《拍手・承認》</p> <p>事務局 では、古池嘉和会長に議事進行をお願いします。</p> |
| 4 | <p>議題(1): 総合計画の概要説明</p> <p>事務局 資料4「多治見市の総合計画について」に沿って、事務局から説明</p> <p>会長 何か質問はあるか。 《質疑なし》</p> |
| | <p>議題(2): 市民委員会の役割について</p> <p>事務局 資料5「第7次総合計画策定推進方針」に沿って、事務局から説明</p> <p>会長 何か質問はあるか。</p> <p>委員 策定市民委員会では、具体的にどのような内容を議論するのか。</p> <p>事務局 総合計画のうち、基本構想・基本計画を議論していただく。</p> <p>会長 市民としての生活感覚・現場感覚から意見を出していただきたい。</p> |

議題（３）：第７次総合計画策定「討議課題集」について

事務局 資料６「第７次総合計画策定 討議課題集」に沿って、第１章・第２章を事務局から説明

会長 １０年後には３人に１人が高齢者となることは大きなショックであるが、高齢者に豊富な知恵を生かしてまちづくりに参加していただく施策を考える必要があるのではないか。

委員 人口減少は大きなショックであった。市全体だけでなく、小学校区別で大きな差があり、小さいコミュニティ毎でも検討する必要があるのではないか。

事務局 面積の広い自治体であれば地区毎の総合計画を策定する選択肢もあるが、本市の面積では現実的ではない。ただし、市街地と郊外団地では状況が異なるため分けて対策を講じる必要があると認識している。地域コミュニティにも視点を置きつつ、全体を見通していく方針である。

市長挨拶（公務により遅れて出席）

５ 意見交換（自由討議）

会長 会議全体を通して質問や意見はないか。

委員 多治見市の強み・弱み・脅威・機会を分析し、委員会全体で共有できればよいと思う。

脇之島校区に住んでいるが、推計結果は実感としても感じている。脇之島校区で高齢化が進むことで日常の買い物など、公共交通に頼らざるを得ない現実があり、交通に関する課題がある。

そのため、名古屋へ転出することを考える人も出てくるのではないか。

会長 SWOT分析を何らかのタイミングで実施し、早期に対策をすれば、弱みや脅威を強みや特徴に変えられる行政運営ができるように市民委員会で議論したい。

委員 市之倉校区の団地に住んでいる。３０年前に３０～４０代が一気に入居したため、当時から高齢化が急激に進むことは想定できた。

高齢者を弱者と考えず、TGK48プロジェクトのように動ける高齢者を活用する方法を考える必要がある。

会長 仕事をリタイアし、地元に戻った時に自分から地域に出る機会がない。うまく参加する機会をつくる必要があるのではないか。

事務局 平日、日中に多治見にいるのは高齢者が多いため、防災・防犯などの自助・共助には高齢者の力が必要である。

委員 元気な高齢者の参加する場も重要であるが、２０～３０代の独身を中心とした若者も参加する場がない。高齢者と若者が一緒に活躍できるように若者を誘い出す施策が必

要ではないか。

廿原町に住んでいるが、公共交通が課題である。

小・中学校の生徒数にバラつきがあり、春日井のように合併してバスで通学する検討も必要ではないか。

委員 地域へ参加する意思があっても長時間労働やサービス業の土日勤務などで時間がない若者も多い。

女性が流出する原因も多治見に働く場がないためである。年収 400 万円の男性と結婚した場合、共働きしなければならず、名古屋に通勤しながら家事を行うのは時間的に困難であり、名古屋などに引っ越さなければならぬと考えるのが現実ではないか。

委員 多治見市で子育てはしやすいが、結婚するのに適した環境とは言えない。若者の意識は名古屋に向いているため、多治見で結婚し、住みたくする意識を高めるための施策が必要である。

会長 多治見市の他の会議でも、地元を盛り上げたい若者がいる。そんな若者を生かさなければならぬ。

委員 仕事で接する母親の意見では住所地の選択に子育て環境は大きい。多治見市は子育て環境が充実しているの、それを生かしてほしい。

近隣市と比較し、多治見市は子育てでNPOを活用した事業が進んでいる。行政と市民活動がうまく連携がとれていると感じる。他の分野でもNPOを活用した事業を進める必要がある。

郊外団地に住む自分も、将来買い物弱者になるのではないかと心配がある。一方で、移動販売などの事例もあり、若者がそういう事業展開できれば、地域でのコミュニティの場となる期待がある。

多治見市は高齢者が増えても、しぼんでいく街ではないと思う。

6 その他

事務局 第2回多治見市総合計画策定市民委員会は3月26日(木)に開催する。

第3回多治見市総合計画策定市民委員会は日程調整について。

《委員間で日程調整》

会長 第3回多治見市総合計画策定市民委員会は4月7日(火)に開催する。

事務局 第2回多治見市総合計画策定市民委員会で討議課題集を配布するまで、討議課題集(案)の公表はしないでいただきたい。

<会議終了>